

第 63 回 あなどれない（新春学長メール Vol.9）

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

大学入学共通テストは、無事終了し、関係者の皆様は大変ごくろうさまでした。
ご存じのように、東京のある試験会場で殺人未遂事件がおきました。
予想もできないことが起こることを改めて感じました。本学では、教職員の皆様のご尽力により無事終了し、心より感謝申し上げます。
また、学生の皆さんもキャンパスを受験生に安全に使用させてくれてありがとう。

さて、今回の一連の発信メールに多くの前向きな学生が、返信をくれました。
その一部を紹介します。

ある学生さんは、昨年、感染が落ち着いていた時に、ひとつの夢であった<旅行>をしている人に出会ったことを丁寧に書いてくれました。
非常に感動しました。当たり前であったことが当たり前でなくなり、それを再開した時の喜びは格別であり、また違った角度から様々な発見があったことを感じました。
どんな状況でも、自分のやれることをやり、そこに喜びを覚える人は、きっと幸せな人生を歩むのではないかと思いました。

もうひとりの学生さんからは、自分は長崎大学が第一志望ではなかったが、前向きに多くのことにチャレンジをしてきた。
学業のみならず、課外活動やボランティア活動でも頑張り、人の輪を広げてきた。「自分が歩む道は誰よりも色濃く様々な景色を見る」という決意が書かれていました。
非常に、私はうれしかったです。人生というのは、思うようにならないことが多いのです。
しかし、置かれた場所で、与えられた環境で、一步一步前に進むしかないのです。
きっと、このような学生さんが、長崎大学人として、未来を切り開いてくれると確信しております。

大学院へ進学を希望している学生さんからの熱いメールも頂きました。
「地球規模で物事を考える」ということを自分なりに企画をたててコンペ等に挑戦しているようです。
挑戦する気持ちがあり、そして、勇気をもって行動するということは、素晴らしいの一言に尽きます。
熱い思いが、いつか実現することを祈願しております。

最後に、ひとつ印象に残ったメールがありました。

「学長は、あなどれない」と思った、というメールです。苦笑しました。私が発信する一連のメールを読み、「学長は、あなどれない」と、感じた。

「あなどれない」とは、馬鹿にできない、油断できない、甘くみてはいけない、という意味です。

一般的に、力の強い者が、自分より弱いと思った人に対して「こいつは、あなどれない。油断したら負けるぞ」のように使う場合が多いような気がします。

でも、この学生さんは、学長をあなどれない…と思った。面白いですね。

こんな使い方をしてくれて、ある意味、私は嬉しかった。

なぜなら、一般の学生にとって、学長とは、ほとんど意識しない存在でしょう。

学長の名前も知らないし、日常生活にかかわることがないし、唯一、入学式と卒業式の時くらいに、遠くから顔をみるような存在でしょう。

私だって、学生の時はそうでした。日常の勉強や課外活動に、学長の存在は不要ですし、意識さえしませんでした。

でも、この学生さんは、私のことをあなどれないと思った。つまり、存在を意識したということでしょう。それは、単純に嬉しかったのです。

今回、<平常心><道><基本><継承>というテーマでメッセージを送りましたが、この学生さんは、このメッセージの何かがピンときたのかもしれない。

今後も、学長として、長崎大学人として、河野茂として、学生の意識に、少しでも何か前向きなメッセージを残せるように、がんばりたいと思います。

学生みなさんも、これから進級、進学、卒業、就職等が迫ってくるとは思いますが、それぞれの道で、前向きに進んでもらいと思います。